



No.10

## ボストン留学体験記

ブロード研究所 Postdoctoral Fellow

小山 智史

### ■はじめに

私は現在、米国マサチューセッツ州ケンブリッジ市にあるブロード研究所にて、博士研究員として主にヒトの遺伝疫学研究に従事しています。新型コロナウイルスの感染拡大によって、医学研究における留学事情は様変わりしましたが、その価値は感染禍以前のそれと劣らず素晴らしいものであると感じています。現在留学をご検討されている方の参考となればと思い、以下に私の経験を述べさせていただきます。

### ■留学までの経緯

医学部を卒業後、循環器内科医として多くの症例を経験することができました。このなかで、大規模臨床試験の結果から生まれるエビデンスに基づく治療—Evidence based medicine (EBM) は、安全で均質な医療を提供することができることを学ぶことができました。この一方で、EBMが有効に作用しない症例も多く経験しました。このような疾患のheterogeneityを理解するために分子生物学・遺伝学を学ぶことを決め、博士課程に進みました。博士課程の間は、主に遺伝子組み替えマウスを用いた分子生物学的研究に取り組みました。学位取得後は理化学研究所の博士研究員として、主に虚血性心疾患の遺伝的基盤の研究に従事いたしました。本研究を通じて、指導を授かりました多くのラボリーダーたちの多くが海外での研究経験をおもちで、また揃って

海外留学をお勧めいただきました。漠然と意識していた海外での研究活動ですが、これにより強く意識するようになりました。

2019年頃より留学先の検討を始めました。そして、最終的に留学先として希望したのはゲノム・遺伝学分野において臨床的視点からインパクトの高い研究を数多く発表しているブロード研究所の心血管研究部門 (Cardiovascular initiative) でした。現在の受け入れ先のNatarajan博士、Ellinor博士とは2019年のフィラデルフィアで実施された米国心臓病学会で直接お話しさせていただき、留学の意思をお伝えしました。2020年2月に実際にボストンを訪れ、研究室メンバーとの面談・これまでの研究についてのプレゼンテーションを行いました。帰国後、留学の受け入れについて許可の連絡をいただきましたが、コロナウイルス感染の拡大もあり、実際に渡航できたのは2021年の1月となりました。渡航直後、研究室は閉鎖されていたので、すべての手続きやオリエンテーションはリモートで行われました。幸いなことに、ワクチン開発・接種が順調に進んだため、感染は急激に収まりをみせ、夏にはほぼ制限なしでの研究・日常生活が可能となりました。私たちの研究室でも週に1回のラボミーティングが対面を主として再開され、研究室の仲間とのコミュニケーションの向上を図っています。参加率向上のため、毎回お菓子も供給されます。